

第 11 回 新宮ダムの堤体挙動等に関する技術検討会 審議結果

日時：平成 30 年 12 月 4 日（火）13:00～15:00

場所：大阪コロナホテル 別館 2 階会議室 200A 号室

出席：阪田憲次座長、鎌田敏郎委員、河野広隆委員、佐竹正文委員、金銅将史委員、渡辺博志委員、石神孝之委員

資料：資料 1 議事次第

資料 2 洪水吐きゲート操作性について

資料 3 堤体下流面の漏水について

審議内容

1. 洪水吐きゲート操作性について

平成 27 年 2 月に実施した変位抑制工の施工後のモニタリング結果についての審議を行い、次の指導・助言を得た。

ダム軸方向の堤体変位については、プラムライン等の計測結果から抑制効果が見られる。しかし、対策工以前よりは小さいものの谷側への変位が進行していることや、ゲート隙間が狭まっている箇所があること等から、引き続きモニタリングを実施し、状況を注視していく必要があるとされた。

また、引き続き、モニタリングの状況を注視して現在の対策工の効果や懸案事項の有無を確認することが良いとされた。

2. 堤体下流面の漏水について

平成 27 年度に実施した堤体下流面の漏水対策工の施工後の状況について、報告を行った。

3. その他

今回の検討会は、今後のモニタリング結果を踏まえ、開催していくこととされた。

以 上